

携帯メール連絡網システムを
導入する前に
チェックすべき
重要項目



有限会社オムニシステム
代表取締役 野村良平

①初めての人が知っておくべき基礎知識とは？

「連絡網システムを導入したいのですが、御社のシステムの特徴は何ですか？」

「連絡網システムを導入することでどんなメリットが得られるのですか？」

「個人情報保護対策はしっかりしていますか？」

今私のもとにはほぼ毎日、このようなご相談が寄せられます。

yahoo 検索で「メール連絡網 第1位」等、キーワード検索順位がアップしてからは特に多くご相談を受けるようになり、1日中電話やメールにかじりつかざるを得ない日もあるほどです。

このようなご相談・ご質問を受けることは非常に喜ばしくありがたいことなのですが、メールやお電話でやり取りしているなかでいつも思うことがあります。

お問い合わせをいただくほとんどの方は「他社の連絡網システム」と明らかに比較しているようです。そんな方々とお話をしておりますといつも思います

その前に知っておくべきことがあるんですよ！

簡単にはじめられるメール連絡網システム…

あとは機能がどれだけ充実していて価格がどれだけ安いかなだ！

…とお考えの方がほとんどのようです。

しかし、そこには落とし穴があります。

携帯メールのやり取りにはパソコンメールには無いさまざまな制約があるのです。

「なぜそんな制約があるのか？」なのを事前を知ることで「皆さんが利用状況にピッタリマッチした連絡網システムを選ぶことができるようにすること」、「運用が始まってでも対応にあわてることが無いようにすること」がこのレポートの眼目です。

このレポートをお読みいただくことによって、以下のような項目に対する理解を深めることができると確信しています。

- 連絡網システムを運用すると、いったいどんな問題に悩まされるのか？
- なぜメール連絡網システムを使うべきなのか？
- どのようにメール連絡網システムを選べば良いのか？

それではまず、「皆さんもお持ちのパソコンのメールソフトを使って 1,000 人の携帯電話にメールするとどうなるのか？」を考えてみましょう。

専用の連絡網システムを使わずに、原始的な方法でたくさんのメールを携帯に送るとどうなるかを疑似体験していただきます。

送信スピードと待ち時間

さて、全員へのメール配信を始めました。

まず最初にお気づきになるのが送信のスピードでしょう。

配信元のパソコン → プロバイダのサーバー → 宛先の携帯会社のサーバー → 個人の携帯

という操作が延々と繰り返されますので、通信状況やサーバーの性能等によっては時間がかかります。

もちろん、止めることは許されないでしょう。

できるだけ早く送信できることが望ましいことは当然ですが、送信中にパソコンにトラブルが発生したらどうなるでしょうか？

突然固まったり、停電したり、誰かがコンセントに引っかかって抜けてしまったとか(笑)・・・
いろいろな原因で中断してしまうことが考えられます。

中断してしまったら、どこからやり直せば良いのかがわからなくなってしまいます。

終業時間の際に送信し始めたら、送信が終わるまで待つのですか？ そのために残業しますか？

【ポイント】

「メール送信が終了するまで待っていなければならないシステム」は要注意です。

大量のメール送信は、しっかりと管理されたコンピュータ上で行われるべきなのです。

そして、一斉に送信するためのボタンをクリックしたら、あとは「お手元のパソコンの電源を切っても良い」というシステムでなければなりません。

送信の場所と時間の問題

あなたが携帯メール連絡網の責任者だったとしましょう。

ある休日の朝に突然、連絡事項が発生しました。できるだけ早く連絡しなければなりません。

メール送信のために休日・早朝出勤しますか？ もっと朝早い時間や夜だったらどうしますか？

送信する時間帯に「停電」があったらどうしますか？

落雷で電話が不通だったらどうしますか？

【ポイント】

システム本体を特定のコンピュータにインストールして使用しなければならないタイプのシステムは、使用場所や使用時間が限定される可能性がある所以要注意です。

誰もが気にしてる「個人情報」

学校の保護者の方々への連絡網だったとしたら、そのデータを入れたコンピュータを職員室に放置しておくのですか？

パソコンを机に固定しますか？

ネットワーク（LAN）から孤立させますか？

USBメモリさえも差込めないようにしますか？

ノートパソコンを、パソコンごとごっそり盗難というニュースもありました・・・

【ポイント】

厳格に管理されていないパソコンに、個人情報が入ってはいけません。

厳格な管理とは、人が出入りできない場所で、阪神大震災レベルの地震にも耐え、電源や回線の多重化対策がなされているような場所です。

厄介なエラーメール

次に、お気づきになるのは多分、エラーメール。つまり、登録したメールアドレスが記入誤りや入力誤りによって、存在していないメールアドレスにメールを配信してしまっているような状況です。

これらのメールアドレスは速やかに修正されるべきでしょう！でも、どのメールアドレスが・誰のメールアドレスが、どのように間違っていたのでしょうか？探すだけでも大変です。

また、エラーとなったメールアドレスの原因を調査していると「あれっ？」と気づくことがあるはずです。

「このメールアドレスはどこも間違っていないじゃないか。なぜ届かないんだ？」
「携帯同士ならやり取りできるのに、なぜパソコンからだと受け取ってもらえないんだ？」
「届いたり届かなかったりするのはどうしてなんだ？」

こんなことが実際に起こります。

これは連絡網システムが原因で発生するものではありません

携帯メール連絡網のシステムの運用の難しさの一つがここなのです。

これらの方には

「入会したのになぜ連絡が来ないんだ！」と言われても仕方ありません。

エラーメールが発生する原因は、受信する人の携帯電話に設定されている「迷惑メール防止、パソコンメールの拒否、リンク付きメールの拒否」等の設定。

また、携帯会社自体が実施している「迷惑メールブロック対策」、さらには回線や基地局の混雑など、原因は多岐にわたります。

そんなに難しいものなのか・・・と引き気味のあなた・・・
大丈夫です。

このような現象は「必ず発生します」が、楽に対応できる仕組みを持っている連絡網システムを選べば良いのです。

話を戻しましょう。引き続き 1,000 件送信中です。
なんとか手作業でエラーメールも解決できたことにしましょう。

1 ヶ月ほどしてまた別件で 1,000 件配信したところ、またボロボロとエラーメールが発生し始めました。
どうしてでしょう？ ご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

相手は携帯電話です。携帯電話のメールアドレスは簡単に変更できます。
つまり、あるときまでは正常に届いていたのですが、その方がメールアドレスを変更したために相手先のメールアドレスが存在しなくなったというわけです。

さあどうしますか？

もっと奇妙なことが起こりました。

送信したはずのメールが

「何日も遅れてから届いたぞ、今頃どういうつもりだ！」

とクレームが入りました。しかも何人もの方からです。

どうしてこんなことになったのかわかりますか？

【ポイント】

エラーメールを自動的に解決できないシステムは使い物になりません。

1 日数億件の迷惑メール

携帯メールは、各携帯会社のコンピュータが処理して皆さんの手元に届いています。

今こそかなり少なくなってきましたが、ほんの数年前までは皆さんの携帯電話にも、たくさんの迷惑メールが届いていた頃があったはずですよ。

携帯会社の説明によると、今でも1日9億通以上もの迷惑メールと戦っているそうです。

そこで、各携帯会社が「迷惑メールブロックシステム」なるものを開発したのです。

そして、不愉快なメールが皆さんに届いてしまわないようにがんばってくれているのです。

【ポイント】

個人個人の携帯電話の設定で迷惑メールをブロックする方法と、携帯会社がメールの送信状況を監視してブロックする方法があります。これらが意識されたシステムでないと「送信できたのに届かない」という現象が発生します。

「システムは送信を完了しているので、届かない原因は携帯会社に聞いてください！」などと言うシステム会社もあるとの事です。

迷惑メール業者の手口を知る

では、迷惑メールの送信元は一体どんなことをしているのか知っていますか？

メールアドレスはアルファベットと数字、一部の記号からなっています。

適当なメールアドレスをコンピュータで自動的に作成し、自動送信するシステムを作って起動させ、放置しておけば、どのくらいの確率かはわかりませんが、偶然存在するメールアドレスに当たって届いてしまうというわけです。

そのためには、とてもたくさんのメールを送信しなければなりません。
しかし、迷惑メール業者は放置しておくだけですからね・・・
取り締まりはイタチゴッコでなくなりそうにありません。

【ポイント】

専用のメールアドレスに「カラのメール」を送信すると連絡網に入会できる・・・というものが
あります。その専用のメールアドレスもいつかは迷惑メールの餌食になってしまうでしょ
う・・・部外者が入会できないような対策が無いシステムも存在します。

携帯会社の対応

携帯会社はこの「いい加減なメールアドレスが含まれるパーセンテージ」に注目しているよ
うです。

つまり、非常にたくさんのメールを送信しているのに「届け先が存在しないためエラーにな
るパーセンテージが異常に高い送信元は怪しい」というわけです。

適当に作成したメールアドレスに送るわけですから当然です。

携帯会社によって対処方法が異なりますが、このような現象を発見すると、いったん別の場所
に格納して引き続き状況を監視し、「もうこれは絶対！怪しいメール送信元だ」とシステム
が判断すると、それらのメールを一切の断りなしに削除してしまいます。
または、極端に遅らせて(後回しにして)届けます。

こうすることで、各携帯会社のお客様に実害ができるだけ及ばないようにしているのです。

【ポイント】

この現象が発生してしまったらどうにもなりません。連絡網の担当者になるであろうあなた
の責任です。届かないメールアドレスが徐々に増えているのに放置しておいたからです。
これが自動で管理されるシステムを選ばないと、連絡網は1年を待たずして破綻することも
あるでしょう。

これであなたも立派な迷惑メール業者？

ここでちょっと考えてみてください。

「エラーになるメールアドレスをたくさん含んだ連絡網の名簿データ」から送信されるメー
ルは迷惑メール業者のメールと変わらないんじゃないか？

そのとおりです！

ですから、無効なメールアドレスがたくさんになってしまわないように常に監視して名簿をメンテナンス(クリーニング)しておかなければならないのです。

しかし、無効なメールアドレスかどうかは「実際にそのメールアドレスにメールを送信」してみないとわかりません。

メールを送信することなく連絡網名簿の「メールアドレスが正常かどうかをチェックする方法を携帯会社が提供する」ことは、現在もこれからもありえません・・・そんなことをしたら、迷惑メール業者の思う壺です。

【ポイント】

しかし、連絡網の管理者に負担をかけずに「無効なメールを自動チェックする方法」があります！ 後で出てきます。

見かけ上の解決？真の解決？

携帯会社が提供している「特定接続サービス」業者というものがあります。

これに契約し、料金を支払っていれば「エラーになるメールアドレスがたくさん含まれていても、迷惑メールとして処理しませんよ」という契約です。(非常に高額な契約です)

しかし、よく考えてみてください。

「存在しないアドレスにはメールは絶対に届かない」「迷惑メール防止設定している人には絶対に届かない」という事実には変わりがないのです。

届かない人には「届かないので切り捨てる」という考え方です。

【ポイント】

重要なのはそういったメールアドレスが含まれていることに早く気づき、早く除去したり、連絡できなくなっている人を早く再登録したりする措置をとることが大切なのです。

緊急時以外は一切使用したくない

携帯連絡網を構築して「いざ！というときにのみ緊急連絡を行いたい」というお申込みがたまにあります。

これは絶対におすすめできません。やめてください。

相手は携帯電話です。メールアドレスが簡単に変更できてしまいます。連絡網に入会後に「迷惑メール設定してしまう人」も現れるでしょう。

いざ！というとき送信したら、ほとんどの方がメールアドレスを変更していて「連絡できなかった人が多数いた」なんてことになりかねません。

ではどうするか？

こんな方法を考えました。

メールアドレスが変更されたりして無効になっている方を知るには、その方にメールを送信して届くかどうかを確かめる以外にありません。

これを自動化してやればいいのです！

つまり、定期的に「確認メール」のようなものを自動的に配信して、その結果を自動処理し、メールアドレスが無効になっている方のお名前の一覧を得るのです。

そのためにも、日時を指定した予約配信ができて、しかも永久に自動繰り返ししてくれるような機能があれば大助かりですね。

開封確認は確実なのか？

多くの人にメールを送信したら「ちゃんと見てくれているのだろうか？」と思うはず。

このように送信したメールを見たかどうかを判断することができる機能を「開封確認機能」といい、多くのメール配信システムで装備されています。

メールが届く → メール中のリンクをクリックする → Web 接続に切り替わり内容を表示

といった具合です。

しかし、ここでも予期せぬ問題が発生しました。

「開封確認メールは開けたくない」という人がいるのです。理由は簡単「パケット代がもったいない」からです。

Web 接続しない契約で携帯電話を使用してる方もいらっしゃいます。

考えてみると当然かもしれません。普段から携帯電話でインターネットしない人は、Web 接続することに心理的な抵抗があるのです。

なにか他に手段はないのでしょうか？ これも後で詳しくでてきます。

完璧な管理は本当にできるのか？

1,000 人に開封確認メールを一斉送信しました。

1 時間後に開封確認の状況を確認しました。100 人の方がまだ開封していません。

早くみてもらいたい・・・

その方々に再度メールを送信して開封を促します・・・

全員が開封して内容を確認してくれました！良かった！これで一件落着・・・

こんなことが実際に可能でしょうか？

結論から言えば、難しいと思います・・・

携帯電話は連絡網からのメールを受信するためだけに、待機しているわけではありませんよね？

メールをお届けした瞬間、

- その方が通話中だったら？
- 仕事中で電源を切断していたら？
- マナーモードにしていたら？
- 圏外にいたら？

パソコンのメールと比べて携帯メールの良いところはまず第1に「メールの到着が持ち主に通知される」ことです。

この通知が前述のような理由によって、「通知できない」場合はどうなるのでしょうか？

携帯のメーカー等によっては1度通知に失敗すると、「次に新たなメールが受信されるまで本人には通知されない」こともあるようです。

早く開封してもらうため、開封確認していない方だけに「再送」したらいいのでしょうか？

その方が実際にメールの到着に気づいたとき「何通もの同じ内容のメールを受信する羽目に」なります。これに対してクレームが・・・

開封することはしたのだが、しっかり内容を見ていなかった・・・なんてことも・・・

携帯メールの連絡網システムなんて・・・

我々は自信を持って販売しているサービスですが、以上のような理由から完全な連絡方法とは言えないと思っています。

実際のところ、誰一人として不快な思いをさせることなく、どんな場合でも絶対遅れることなく確実に連絡することが可能な連絡網システムなど存在しません。

本人がメールアドレスを変更したり受信拒否設定することが可能なうちは、どんなシステムでもメールを届けられないことが必ず発生するのです。

連絡網システムはまだまだ進化の過程の途中です。

今は「携帯メール」を「連絡網に代用している」段階です。

しかし、便利であることは間違いありません。

確実性を強めるには、「多様な連絡方法のうちの一つ」として機能させることもお考えください。

そして、このような前提を受信する方々に事前に少しでも認識しておいていただく必要もあるのではないのでしょうか？

【ポイント】

メール連絡網の入会者が「メールアドレスを変更してしまった」としましょう。

たとえば弊社のシステムではメール送信時に自動削除され、削除一覧に掲載されます。

連絡網から削除されたことを、管理者の方から「削除されましたから、入会しなおしてください」と連絡するのですか？ 「毎月？日の正午のテストメールが届かない場合は再度入会する必要があります」とするのですか？・・・

メールアドレスは変更されているわけですから、当然メールできません。

電話連絡がしますか？口頭で教えてあげますか？

届かなかった場合はどう対処するか？ 事前に考えておきましょう。

全ての問題点を解決

このようにたくさんの問題を抱えた携帯へのメールの一斉送信。

これらの問題は必ず発生する問題ばかりです。

よって、あなたが候補に挙げているシステムが、最低限これらの問題を「管理者の手を煩わせることなくクリアできるシステム」であることをご確認ください。

もちろん弊社のシステム「マメール」では、これらが「すべてうまくいくようにするための仕組み」をご提供しています。

それは、これまで述べた様々な問題をマメールはすべて経験し、システムを改善するために乗り越えてきたからできることなのです。

動き始めてから9年以上。皆様のご意見やご要望を極力取り入れたマメールを、まず30日間無料でお試しいただき「使い物になるかどうか」をご自身でご確認ください。

連絡網システムは、「試用しないで使用するな！」です

②あなたに相応しい連絡網システムの選び方

ここまでにご説明させていただいた基本的な問題点を「克服しているシステムかどうか」ということと併せ、さらにお読みみになることをおすすめいたします。

システムのタイプを考える

現在では非常に多くのタイプの連絡網システムが存在しています。

あなたに相応しい連絡網システムをお選びになるには、以下にまとめましたシステムのタイプをまず最初に判断されるとよろしいかと思えます。

高速大量配信型	1 時間に数百万件といようなスピードでメールが送信できるシステムです。このようなシステムは設備にもコストがかかる分、非常に高額な利用料金になります。 私的には、数十万～数百万人以上で使用する場合に選択すべきタイプであると思えます。
PC 導入型	ソフトを入手してパソコンにインストールして利用するタイプ。 買取であることが多く、長く使うほど安価なのが最大の特徴ですが、基本的にパソコンのみでの運用になり、個人情報が入ったパソコンごとごっそり盗難というような心配もあります。またパソコンのみでの運用だと故障や停電、電話回線の状態が悪いと送信不可になる場合があると考えられます。
ASP 型	インターネットを介してサービスを利用するタイプ。 データはサーバーで厳格に管理され、パソコンや携帯などインターネットに接続できる機器があれば、いつでもどこからでも利用することが可能であるタイプ。 半面、アクセスするための ID やパスワード等を厳密に管理しなければなりません。弊社のマメールはこのタイプに属しています。
音声・FAX 連動型	メールでの連絡以外に希望者には直接電話をかけて、コンピュータの音声をきいてもらったり、FAX でお知らせするというシステム。 非常に良い手段だと思いますが、音声や FAX は全体に行き渡るスピードが極端に遅いのが欠点で、高速化するには電話回線を多重化するなど非常にランニングコストがかかります。

システムの機能・性能を考える

携帯メール連絡網の導入をお考えになっている方々の一番の関心はここにあるかもしれません。

システムの種類によって運用方法や使用方法が大きく異なる場合があるので、十分に検討が必要になってくると思います。

無料お試し等でしっかりと確認してから導入できる業者が理想的だといえます。

紙面でいくら高性能を謳っても、実際の体感性能は利用者の方が決めることです。

カラメールによる入会機能とその意味

カラメールによる入会は簡単で便利ですが、この入会方法以外に「管理者が手入力でメールアドレスを登録する方法」というシステムもあります。

しかし、弊社ではこの入会方法を提供はしていますが推奨しておりません。

その理由は以下のようなことからです。

管理者へメールアドレスを用紙に記入したりして渡すため、個人情報の漏洩につながる場合がある。個人情報の漏洩の多くは内部の人間によるものです。

携帯のメールアドレスは基本的に長く複雑で、記入誤り・入力誤りによって正常に入力することが難しいと同時に管理者に非常に負担がかかります。

迷惑メール防止機能を設定しているかどうかを確認していない(できない)ので、一時的に入会できたとしてもすぐにエラーとなり削除されてしまう。その際、削除されてしまった方の対応があとあとになって非常に大変になる。

その点、ご自身でカラメール入会を行ってもらうようにすれば「入会のお礼メールが届くか届かないかで、入会できたかどうか判定可能」なため、管理者は「メールが届かない」、「入会できない」という事に対応する作業から開放されます。

迷惑メール防止設定されている場合、その解除には本人の暗証番号が必要となるため、解除のためのアドバイスはできても解除のお手伝いはできません。

携帯の機種はどんどん増え続け、解除の方法も頻繁に変更されるため「どうしてもわからない方はお買い求めのショップにお尋ねください」とするほうが結局親切で早く解決できることが多いです。ショップの店員さんはとても優しく親切に教えてくれます。

つまり、お選びになる連絡網システムの入会方法は、「カラメールによる入会を主体としているシステム」であるべきだと思うのです。

カラメールによる入会には欠点もあります。

入会用のメールアドレスが部外者に知れてしまうと、悪意をもって入会しようとしている部外者も入会できてしまうことになるからです。

これを阻止するには、入会者の名前を逐一チェックして部外者を発見したら削除してしまうという方法が考えられますが、管理者の方が目を光らせていなければならぬため負担が大きくなります。

そこで「入会パスワード」なるものを決め、本文欄が空のカラメールではなく本文欄に「入会パスワード」を入力して送信してもらい、一致しない場合は入会できないように制限するのです。入会パスワードは自由に変更してさらに部外者にはわかりにくくできます。

エラーメールの対応能力

連絡網システムが「送信したメールを届けることができずエラーになる」という現象は必ず発生します。この現象を自動的に処理する機能を持っていることが必須となります。

そして、そのエラーを回避する機能の精度が大切です。これは技術的なテクニック云々の問題だけではありません。エラーを解決するノウハウの蓄積量が大切になってきます。

また、エラーが発生したらどのように処理されるのかを知っている必要はありませんが、処理後に運用上どう扱うかは考えておく必要があります。

例えば、「メールアドレスを変更されたりメーカーを変更されますとメールが届かなくなり、名簿からも削除されますので、ご自身で再度カラメールを送信して入会しなおしてください・・・」というような事前のアナウンスは必要だと思います。

エラーメールの対応能力については、後でもっと詳しく説明します。

グループ分け機能の違い

グループ分け機能でご注意いただきたいのは、グループ分けの「概念」についてです。これに関する質問もかなり多く承ります。

「AとBのグループに入りたければAグループ、Bグループそれぞれにカラメールして入会してください」というタイプのもの

「AとBのグループに入りたければ、入会時にAとBをチェックしてください」というタイプのものがあります。

前者は何度も入会する操作が必要になり、実際にたくさんのグループに所属している方は入会・退会とも大変になってしまいます。

また、メールを送信する管理者が「AとBのグループにメールする」操作を行った場合、同じ内容のメールが二通届いてしまうというような現象が発生する場合があります。

後者の場合、どんなにたくさんのグループに属している人でも入会は1回のみで済みます。またメールを送信する管理者が「AとBのグループにメールする」としても、登録されているのは一つのメールアドレスが1回のみですので、同じ内容のメールが続けて2通届くようなことは発生しないのが普通です。

【ポイント】

これは連絡網をどのような用途に利用されるかによると思います。充分にご検討ください。

配信スピード

こういったタイプのシステムは、スピードが速ければ早いほど高額なサービスになります。

たとえ瞬時にメールが届いたとしても、前述したように「受信者の都合が悪ければすぐにメールを見てもらえるとは限らない」のだから「超高速」は必要が無いのかもしれませんが。

マメールの配信スピードは超高速ではありません。逆にすこし押さえ気味の配信スピードだと感じられるかもしれません。

超高速で配信したために発生するトラブルもあるのです。この件については後で述べます。

費用を考える

システムの運用費用は、利用者間で負担する場合もあるのでできるだけ低価格が良いに決まっています。

マメールではご利用者様のお支払い条件に合わせ、年度の途中から年度末までの分をまずお

支払いいただき、その後に通常のお支払方法へ・・・というような変則的なご要望にもお応えしています。

いずれにしても、まず基本性能が満たされているのかを確認してから価格の比較を行っていくのが良いでしょう。

広告が表示される

利用料金が安い代わりに、「連絡メール中に広告を掲載します」という条件で利用するシステムがあります。

連絡メールを受信する方が、たとえわずかな広告であっても、毎回毎回「広告を受信するためのポケット料金を負担しなければならない」ことを考慮する必要があります。ちりも積もれば何とかです。

また、「健全な広告のみ表示します・・・」というような約束であっても、その広告へジャンプした後に表示されるリンクの健全性、その先のリンクの健全性・・・というところまで確実に保証できるのかが疑問です。本来の目的と全く関係のないものではないでしょうか？

送信可能な文字数も広告の分だけ圧迫されることになります。

③自信があります、システムの品質

端末の対応

現在、ドコモ、au、ソフトバンク、ウィルコムに対応しています。新しい携帯会社が始まった場合は極力早く対応するようにしています。

また、PDA 端末等でも、インターネットメールと Web 表示が可能な端末であれば、ほとんどの機種でご利用いただけるはずです。

パソコンメールにも、もちろん対応していますが、全世界に存在するすべてのメールソフトで完全に動作することをチェックすることができません。

ウィンドウズのアウトルック等、国内で利用者の多いメールソフトでは動作確認済みですが、そうでないメールソフトで完全に動作するかどうかはご自身で確認して判断していただくことになります。

迷惑メールの混入について

パソコンを利用されている方ならお分かりだと思いますが、とにかく毎日のように見覚えのない不愉快なメールが届くのがパソコンメールの世界です。

実はマメールから 1 つ提供させていただいている xxxxx@mamail.jp のアドレスも例外ではなく、実は毎日たくさんの迷惑メールの攻撃にさらされています。

でも、弊社独自の迷惑メール排除機能によって、それらのメールの影響をご利用者様が受けないように保護しておりますのでご安心ください。

メールアドレスのクリーニング精度

存在しないメールアドレスにメールを送ると、どのようなエラーが返信されてくるかご存知ですか？

ほとんどの場合、エラーの詳細が英語で記述された、難解なメールが返信されてきます。

マメールのシステムではこれらのメールの内容を自動分析。その分析結果に基づいてそれぞれのメールに対応した処理を行います。

例えば、相手が受信できなかった理由があいまいな場合には、
「数分後に自動的に再送。連続してエラーになるかどうかを何度か自動的に試み、規定回数を越えたら会員データから削除する」など、リアルタイムに 50 以上のエラー対応パターンより最適な対応方法を自動選択して個別処理します。

サーバー故障ゼロ

とても信頼性の高いサーバーを利用しています。
稼動を始めた 2001 年以降、サーバーが一度も故障していません。

阪神大震災レベルにも耐える環境に設置されたサーバーに、高い信頼性と高い保守レベルがこの安心感を創り出しています。設備については後で詳しく。

④こんな用途に使うことができます

全配信

入会されている方全員に送信する機能です。

パソコンや携帯電話からユーザーIDとパスワードを入力してログインして操作します。ASPですからIDとパスワードを知っていれば、インターネットが利用可能な端末ならいつでもどこでも送信することが可能です。

テンプレート機能を使用すれば、あらかじめ登録されている雛形の文章を呼び出して必要部分のみを編集して送信できますので、形式が統一され、記入ミスなども最小限に抑えられます。

携帯電話からログインする際の手間を軽減するため、あらかじめ登録されている携帯電話であればユーザーID、パスワードを入力せずに素早くアクセスできる「かんたんログイン機能」も装備しています。

メールで全配信

通常の友達同士の携帯のメール交換と同じ感覚で操作するだけで全員に配信できるため、メールの利用経験者にわかりやすく、パケット料金の発生も最小限となり経済的に送信できます。

同時に写真を添付することも可能で、写真付きの簡単なホームページを自動作成して、会員の方々がワンクリックで閲覧できるように誘導するメールを自動送信します。

抽出配信

プロフィールの内容をもとにして、連絡網の会員の中から連絡したい人だけの集団を抽出してメールを送信できます。

たとえば保育園などの連絡網では、「バス通学の園児の保護者だけに、渋滞によるバスの遅れを通知する」というような使い方ができます。

プロフィールの設定は自由。

最初は「思いつきで設定しておき、本番までにしっかりと設定する」でも構いませんので、とにかく無料お試しで「使えるかどうか？」をご確認ください。

予約配信

予約配信は、前述の全配信・抽出配信を含め、送信する機能を実行する日時を前もって指定したり、定期的にメールを繰り返し送信したりすることができる機能です。

例えば、学校などの連絡網では、「指定した時間に、サッカークラブの保護者のみを自動的に抽出し、大会の日程を送信する」というような使い方が可能になります。

自動繰り返し機能を使えば、「入会しているのにプロフィールの入力がされていない方を自動的に抽出して、プロフィールの入力をお願いするメールを送信する」ことができます。

また、「会員名簿のメールアドレスが正常かどうかを確認するために、毎月決まった日に確認のためテストメールを自動送信。毎月自動繰り返しする」といった使い方ができます。

管理者の手間が大幅に軽減されラク！になります。

メールを見たかどうかを確認する2つの方法

マメールでは「開封確認」を行うための機能を2種類装備しており、1度の送信でそのうちのどちらかの機能を利用できます。

1つ目の方法はメールを送信する際に、「開封確認メール」のチェックをオンにして送信する方法。

この方法で送信すると、各会員には「開封確認メール」として届けられ、受け取った人は案内に従ってメールの中にあるリンクをクリックすると内容が表示されというしくみです。

各会員がメールの中のリンクをクリックした瞬間に開封したことを記録します。管理者は開封者・未開封者の人数やそれぞれの会員の一覧を管理画面より確認することができ、開封者のみ、未開封者のみにメールを送信したりするアクションが行えます。

この方法は、Webに接続する必要があるため、Webの契約をしていない人(ごく少ないようですが)は開封できません。また、「パケット料金がかかるから開けたくない」というようなお話も伺ったことがあります。

2つ目の方法はメールを送信する際に、メール本文中に「読み終わったら本文の先頭に“了解”と入力して返信してください」というような内容を添えて送信するようにします。

管理者は、「了解」や「了解しました」等の返信をいくつも受け取るわけですが、これを「返信管理」機能によってグループ集計することができるのです。

たとえば、「本文の先頭から2文字を取り出してグループ化せよ」とすると、「了解」や「了解しました」の返信をした人は、先頭2文字のみで比較すると等しい意味なのでまとめ(グループ化)られます。

この原理によって「了解」の返信をした会員の人数や明細を表示できるようになります。

もう少し応用すると簡単なアンケートも可能になります。もうお分かりですね。「明日の奉仕作業の参加を確認したいので、出席・欠席・保留のどれかを本文に入力して返信してください」とすれば、そのメッセージごとにグループ化されて集計されます。

この方法は、受信した方々が管理者の指示したメールのきまりを守るかどうかにかかっています。

しかし、メールのやり取りだけで済むので、少人数での連絡網によく利用されています。

ただし、「了解」等の返事を行ったとき、その了解がどのメールに対する「了解」であるかを確実に判別する方法が存在しないため、何種類もの質問メールを同じ日に送信して、それぞれの結果を返信してもらうような使い方はうまくいかない場合があります。

このような場合は、1つの質問の回答を締め切ってから次の質問を送信する、という順序をまもって行う必要があります。それができない場合は1つ目の方法を使うようにしましょう。

【ポイント】

マメールの機能はとてもこの紙面だけでは説明できません。

詳しくはメール連絡網「マ・メール」のサイトをご覧くださいませようお願いします。

<http://www.mamailcn.com/>

yahoo で検索「メール連絡網」クリック！

⑤マメールはこうして運用されています

むずかしい説明ですが、連絡網の名簿データやマメールのシステム本体が納められているコンピュータ、それに接続されている回線等に関するご説明です。

サーバー環境

「プライバシーマーク」制度と、情報セキュリティ管理の標準規格である「ISMS 適合性評価制度/BS7799:PART2:2002」を認定取得しているサーバ会社をシステム運用サーバーとして採用しています。

サーバ専用の本格的データセンター設備を構築しています。災害・防犯対策はもちろん、堅牢な設備、徹底的な安全対策で安定したシステム運用を実現しています。

2003年には従来のデータセンター設備をさらに強化し、「情報処理サービス業情報システム安全対策実施事業所認定」を受け（JQA 適合証（No.JQACS1127））、その信頼性が証明されました。

非常時用の発電装置や大容量のバックアップ電池による厳重な停電対策にて、システム停止を防ぎます。

- ・特別高圧 22Kv 受電
- ・高圧受電を 3 系統引き込み
- ・CVCF 自家発電装置
- ・大容量バックアップ電池（大型 CVCF 無停電電源装置）

データセンターでは、耐震性に優れた設備により阪神大震災規模（最大震度 7）の地震にも耐えられ、また万一火災が発生した場合への消火設備も完備しています。

- ・床構造 — 床荷重 1 ton/平方メートル
- ・ラック — 特注耐震ラック 荷重 700Kg/ラック

ホスティングに特化した設計・施工されており、電子計算機用空調機での温度・湿度管理により、サーバ機器に最適な環境を維持しています。

赤外線センサー、バイオメトリクス認証による入退室規制で外部からの侵入を徹底監視しています。

複数回線

5つの大手プロバイダからそれぞれ光ファイバーを引き込み、その回線を通じてインターネットと接続をしています。だからどこかの回線に物理的事故、ネットワーク障害などの問題があったときでも他の回線でカバーできる、障害に対して非常に強い構造になっています。

セキュリティポリシー

インターネットサービスにおいてセキュリティ対策は必須の要素です。弊社採用のサーバの強みはシステムのセキュリティ対策はもちろん、データセンターを完全自社構築しているため、物理レイヤーからのトータルなセキュリティマネジメントができるという点です。

データセンター内外の物理的なセキュリティ対策に始まり、ソーシャルクラック、システムへのクラックに対して明確なセキュリティポリシーを確立し、お客様のデータをお守りしています。

バックアップ体制

夜間、定期的にバックアップを実行し、お客さまの大切なデータを安全な場所へ退避しています。

万が一のデータの破損等が発生しても、バックアップ時点まで復元することが可能ですので安心です。

⑥知っておくと役立つ豆知識

マメールを長年運用していると、様々なことが起こります。その一部をご紹介します。

同じ場所にいるのに同時に届かない

メール一斉配信すると、そのメールは携帯会社のサーバーに送られ、基地局(アンテナ)に送られ、最終的に個人の携帯に届けられます。

あなたの地域にはこの基地局がどのくらいありますか？

この「基地局が極端に少ない地域」で、たくさんのメールを送信しようとする、基地局自体がとても忙しい状態となり、メールをすべて吐き出すまでに時間がかかるようになります。

これによって、「同じ場所にいるのに、メールの到着時間違う」という現象が発生するのです。

【ポイント】

どんな連絡網システムでも発生してしまいます。基地局が能力アップされるのを待つ意外にありません。

残念ながら「早く大量に送ってもダメなときはダメ」なのです。

開封できない

開封確認メールを受信した人が、何らかのエラーによって「開封確認できない」という現象が発生します。

こういった事例の原因の一つに、開封確認メールの内容を表示させるときにクリックする「リンク」の文字の末尾の部分が途切れているときに発生します。

では、なぜ末尾が途切れるかと申しますと、携帯電話のメーカーやプランによっては「???文字までは無料」、「???文字以上は続きを受信してください。ただし有料です」というような受信方法があるからです。

こういった場合、「続きを受信」した後、リンクをクリックしてください。

正常に開封確認メールをご覧いただけるようになります。

開封できない2

1,000人の会員に開封確認メールを送信すると、ほぼ同じ時刻に1,000人近くの人がWebアクセスしようとします。

このとき、基地局がすでに混雑していたり、比較的処理能力の低い基地局であったりすると、Webアクセスできずエラーとなって開封確認メールが開けない場合があります。

弊社のサーバーは数千・数万程度の同時アクセスで根を上げるようなサーバーではありませんので、ほぼ間違いなく基地局が原因となります。

このような場合は、どうしようもありません。
しばらく待ってから、もう一度リンクをクリックしてください。

しばらくして基地局の能力に余裕ができると、開封できるようになります。

【ポイント】

特に人数の多い連絡網の場合は、このような場合がありうることを連絡網の会員になる皆さんにアナウンスしておくとも良いかもしれません。

ふくそう？

輻輳と書いて“ふくそう”と読みます。

地震が発生した時など、多くの人が同時に通話しようとして回線に規制がかかり、つながりにくくなる現象のことをいいます。

これは行政などの災害優先利用を阻害しないための目的もあるようですが、一般的にはこの状況に陥ると「待つ」意外に方法はありません。

携帯電話の場合、基地局のふくそうという現象もあります。
経験がありませんか？ 花火大会やあけましておめでとうコールなど、大きなイベント時に一時的に発生する現象です。
ほとんどの場合、数分から数十分後には解消するようです。

これらの現象は音声通話に起こりやすい現象で、携帯メールやWebなどの経路は比較的起こりにくくなっています。

しかし、大量のメールを超高速で狭い範囲に送信すると、基地局がパンク状態となり到着に時間がかかることがあります。

数万件のメールを一瞬にして「お届けできます！」というような説明がされているシステムは、数万件を一瞬で「吐き出します」と表現するのが本当だと思います。吐き出しても「届くかどうか」はあなたの携帯に届くまでに辿る設備にも影響を受けるのです。

基地局の能力を含めた、様々な場所で「ふくそう」は発生する可能性があり、超高速で送信しても、そのスピードで全員に必ず届くことは保証できないのです。

実際の大震災時、短時間に大量に送信すると被災されている方々の通信に大きなご迷惑をおかけすることにもなりかねません。

⑦お願い

マメール未永く便利にお使いいただくために、少々お願いがあります。

現在の連絡網名簿を移行したい？

「現在メールアドレスの一覧を持っているから、マメール連絡網に移行していただけませんか？」というご要望をたまに受けます。

しかし、このようなご要望は、原則的には推奨しておりません。

メールアドレスの内容は正確であっても、今から連絡網で使うアドレスからのメールを受信できるように設定されている筈がありません。せっかく移行してもエラーがたくさん発生し、後の対応が余計に大変だったということになりかねません。

また、その名簿の一人一人の方に「マメールからメールが送られますが、よろしいですか？」という断りを入れることが必要でしょう。

xxxxx@mamail.jp をインターネット上に公開しないで！

マメールは、1つのご契約に1つずつメールアドレスを差し上げております。

このメールアドレスを、ホームページなどに掲載して公開しているところがあります。

それ自体に問題はないのですが、公開され、「迷惑メール業者のメールアドレス巡回調査」で発見されたとたん、迷惑メール業者は嫌というほど迷惑メールを xxxxx@mamail.jp に送りつけてくるのです。

マメールのシステムはこの迷惑メールをうまく退治してくれます。ですからあなたがその迷惑メールの存在に気づくことはありません。

しかし、多くなってくると退治することが大変になります。

また、不特定多数の人に「入会用のメールアドレス」が公開されていると、「誰かわからない人が入会してしまう」こともありえます。

できれば公開しないようにしていただきたいと思っています。

ご連絡先メールアドレスについて

マメールはご利用料金を低価格に抑えるため、ご契約者様とのやり取りに電子メールを使用しております。

ご利用のお申込みの際に「ご連絡先メールアドレス」という項目が出てまいります。これが私どもとお客様をつなぐ手段となります。

このメールアドレスには、無料お試しの準備が完了して「設定が完了しましたのでご利用ください」という旨のメール、無料お試しの期限がせまってきたときに「継続してご利用になるかどうかを確認させていただく」メール、ご契約後に「ご利用期限が迫っていることをご案内する」メールなどが届きます。

このメールアドレスは、原則パソコンのメールアドレスを指定していただくようお願いしておりますが、アドレスに誤りがあったり、迷惑メールとして振り分けられたりすると、マメールからのご連絡に気づいていただけない場合があります。

無料お試しをお申込みいただいたとき、お申込みの確認メールがすぐに届きますので、このメールが迷惑メールとして処理されてしまわないかご確認ください。

無料お試しのお申込みいただきますと、数分後、遅くても翌営業日には必ずご利用いただけるようにしてご連絡いたします。

連絡が遅い思われたときにはご確認をお願いいたします。

自動振替のお手続きについて

月払いでのお支払いをお選びいただいた場合には、便利な自動振替をご利用いただけます。

初回に3か月分をお納めいただき、その3ヶ月間の間に金融機関による印鑑照合を含む手続きが行われます。

この手続きは、ご利用の金融機関によっては3ヶ月でも手続きが完了のご連絡がいただけない場合があります。

このような場合、引き落としできませんのでお振込で入金していただく必要があります。何卒、ご了承くださいますようお願い申し上げます。